

事務事業名 在宅障害者通園事業

出力日：令和02年03月19日

キーコード：202

施策：	11	障害者福祉の充実	財務コード	01030105-18-00
基本事業：	01	自立支援の促進	担当部	健康福祉部
基本事業の成果指標	自立支援給付の利用者数 施設入所・入院から在宅生活へ移行した障害者の人数		担当課	生活福祉課
			担当係	障がい者福祉担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市内に居住する在宅障がい者で、 1 重度の身体及び知的障がい者 2 医療機関で療育訓練が必要と判断された者 3 家庭の事情や経済的理由により学校での長期休業期間中にさるびあ学園の利用を希望する者で、市長が必要と認める者			事業の内容は 日常生活訓練に関すること。 療育訓練に関すること。 社会適応訓練に関すること。 その他障がい者の自立と社会参加の促進に関すること。 なお、さるびあ学園は、指定管理者として筑紫野市社会福祉協議会が運営を行っている。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			さるびあ学園に通所させることによって、適切な日常生活、療育及び社会適応訓練を受けることを可能とするとともに、障がい者の社会参加を促進する。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	29年度 実績	30年度 実績	01年度 当初	02年度 要求	03年度 計画	04年度 計画	目標
イベント、地域との交流参加人員		人	21	20	22	22			
5. コスト									
事業費		計	千円	1,661	1,494	2,620	2,600		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	800	809	807				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,461	2,303	3,427	2,600			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	利用人数は横ばいであり、重度障がい者が利用できる市内の通所施設として定着している。								
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	重度の重複障がい者が利用できる通所施設が市内にないため、長期利用されている方が多い。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
さるびあ学園は、昭和53年、重度の知的障がい、身体障がいを持つ18歳未満の障がい児のための市内唯一の在宅通園施設として開設。平成22年度から障害者自立支援法に基づいた生活介護、日中一時支援事業を実施する事業所へと転換を図った。				備考・特記事項 or 進行管理欄					